

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：14501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H06967

研究課題名(和文) 重訳における誤訳の意味論的研究 多言語・多文化的対照翻訳方法の成立に向けて

研究課題名(英文) Semantic research on mistranslation in indirect translations - On defining the multilingual and multicultural referential translation method

研究代表者

NGUYEN THANH・TAM (NGUYEN, THANH TAM)

神戸大学・国際文化学研究所・学術研究員

研究者番号：40782016

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究は重訳の事例における誤訳を分析し原因別による誤訳の分類法を検討した。それは音韻論的誤訳、語形論的誤訳、統語論的誤訳、意味論的誤訳である。この分類は個人差や主観性を乗り越え、誤訳を客観的に概括できるため、通常の翻訳にも適用できる。その中で意味論的誤訳を中心に考察し、次の点が明らかにした。意味論的誤訳には、目標言語では意味が完全に理解できない即ち意味が不明な翻訳いわゆる「絶対誤訳」、目標の言語・文化で理解できるが、読み取った意味が起点の言語・文化では等価ではないのが「相対誤訳」とする。これらの誤訳を修正する際に、機械翻訳でも人手による翻訳でも三視点对照の翻訳法は非常に有効と明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research investigates mistranslation from the semantic viewpoint. In particular, we examine the case of indirect translations and suggest the classification method for mistranslations by causes, which includes: Phonological mistranslation, Morphological mistranslation, Syntactic mistranslation, Semantic mistranslation. This can be applied to not only indirect translation but also ordinary translations. This research also focuses on clarifying the semantic mistranslation. Semantic mistranslation can be divided into two cases: Absolute mistranslation whose meaning is incomprehensible in the Target Language(TL), and Relative mistranslation whose meaning is understandable in the TL and TL's culture, yet is not equivalent to the meaning in the source language(SL) and SL's culture. To modify these mistranslations, the so-called the 3-points-of-view source-based translation method has shown advantages in enhancing the quality of both machine translation and human translation.

研究分野：翻訳論、外国語教育

キーワード：重訳 誤訳 意味論的 多言語多文化的対照翻訳 三視点对照翻訳法

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 現代社会的な背景において、翻訳がどのような形式・有り様であるべきかについて、検討することは大いに価値のあるものと考えられる。機械翻訳による SNS やオンラインの内容の翻訳は、技術の進歩のため翻訳の質は進んでいるが、意味がおかしいか通じないことがあるにも関わらず、原因を明確にされていないのが現実である。

その反面、翻訳を評価する時、異なる個人的な感性を超えた、標準的な翻訳の評価を見出すことも必要になる。

先行研究では、文学、歴史から政治や人類学などについての翻訳は、ただ言葉の変換だけでは意味が通じないことも多く、誤解が生じることを多く指摘している。それを通じて、優れた翻訳とは、読者の目標文化の視点に立って、原文に潜在する起点文化を理解しやすく意味を伝える翻訳を捉えられるだろう。それを実現するためには、翻訳者自身が原文の属する文化と翻訳者の属する文化について深く理解していなければならない。しかし、単独の外国語に精通している翻訳者の場合は、母語という言語のルールに支配され、そのフィルターを通してしか見えないため、直接原文から訳すと常に2視点の翻訳しか行えない。自文化を相対化することができないため、結果として、誤訳・訳漏れが生じやすくなるのである。それが多言語・多文化的操作の翻訳が必要となる所以である。

(2) 重訳のやり方に基づいて多言語・多文化的翻訳の方略を論述し、新たな翻訳法を検討する。従来の重訳は、実際に経書、古典文学から科学知識の書籍まで広範囲にわたり行われており、離れている国々・文化を繋ぐ役割を果たした。翻訳史の研究において、しばしば重訳の事例が述べられることがあるが、重訳という現象自体についての研究・論文は非常に少なく、殆ど否定的な評価がされることが多い(St.André, 2009)。誤訳の先行研究のほとんどは、重訳のプロセスに潜在する多文化・多言語的な操作を無視してきたのである。このように、重訳はかなりマイナスの評価がなされているが、どのように改善できるのか一切触れられていない。また、誤訳は直接的か間接的に訳すことが原因とされているが、実際の根拠について触れている研究は見受けられない。

(3) 一方、SNSにおける機械翻訳では、少数言語は一度英語に訳された後で、当該言

語に重訳されることが多い。英語からドイツ語のように直接翻訳される場合もあるが、重訳は決して特殊な翻訳ではなく、一般に行われているのである。さらに、現在の言語の順位の状況、及び多言語・多文化的翻訳方略の場合に適応すれば、次のように考えられるだろう。Heilbron (2010) の翻訳市場上の系統に基づいた分類においては周辺言語であっても、母語話者数が非常に多い言語、例えば中国語(約13億7000万人)、ヒンディー語(4億9000万人)、アラビア語(2億3000万人)やポルトガル語(2億1500万人)が存在している。それらの周辺言語からの翻訳、あるいはそれらの言語への翻訳を行うことを促進できると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、重訳における誤訳の事例分析を通して、現代のグローバル化時代に求められる優れた翻訳法を考案し、実現させることを目的とする。

(1) まず、重訳の意味論的誤訳を研究することにより、普通の翻訳(2視点翻訳)の誤訳との区別し、特徴の言及を試みる。また、意味論的誤訳の発生は翻訳の直接・間接性といかに関係するのか、検討する。また、機械翻訳及び人手による翻訳において、誤訳のプロセスを論理的に説明し、考察する。

(2) 先行研究ではまだ正しくは認識されていないが、多言語・多文化的翻訳に類似する重訳、即ち媒介言語を経由してなされた翻訳のメリットを検討する。本研究は異文化コミュニケーションの観点から、多言語・多文化的な翻訳の形式である「三視点对照の翻訳法」を拡大発展し、実際の翻訳における誤訳の具体的な事例を意味論的に分析することで、文化の差異を明らかにし、訳漏れや誤訳を減らし、より良い翻訳を実現することを目指している。

## 3. 研究の方法

以上の目的を達成するために、次のような方法及び手順により研究を進める。

(1) 本研究は、一年目は多言語・多文化的翻訳方略である三視点对照の翻訳法概念・理論枠を整理確定し、提言することに取り組む。同時に、異文化の翻訳、多言語使用の翻訳に関する先行研究を検討し、誤訳分析の理論的な再検討を行う。その上で、英語を媒介としてベトナム語に重訳された日本文学作品をいくつか取り上げ、日本語版、英語版、ベトナム語版を比較し、誤訳、訳漏れを取り出して原因別に分類する。それによって、誤訳

の量的・質的分析を行い、特に意味論的誤訳の事例と原因分析を進める。

(2) 重訳の事例分析の対象を増やし、誤訳の量的・質的分析を充実させる。それによって、翻訳言語・起点文化を問わず、多言語・多文化的翻訳方略をどのようにしたら多くの翻訳者が効率的に使用できるか、その方略を明らかにする。それに加え、三視点对照の翻訳法を様々な翻訳テキストの種類に応用することを試みる。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究では、具体的な翻訳の事例を分析し、重訳に内在する誤訳の原因及びメリットを検討し、それによって、意味論的誤訳の分類法を提唱した。言語学の分野に依拠して、誤訳は大きく5種類に分けられる。それは「音声論的誤訳」、「語形論的誤訳」、「統語論的誤訳」、「意味論的誤訳」、及び「その他」という5種類の誤訳に分類できた。また、意味論的誤訳の種類は「絶対誤訳」及び「相対誤訳」に分けると考える。絶対誤訳とは訳文自体の意味が不明なケースである。意味のある原文から意味が理解できない訳文になった場合を示す。音韻論的誤訳や系統論的誤訳は絶対誤訳になることが多い。それに対して、相対誤訳とはある程度原文と訳文は等価的であるが、読み手によって理解が異なるか訳抜けがあるケースに当てはまる。

(2) また、誤訳・訳漏れといった問題は直接翻訳にも発生する可能性が高い。重訳の主な問題は誤訳・省略・追加であり、媒介翻訳から受け継いだのが確認できた。また、欧米の言語を媒介した重訳では、漢字の語彙の意味合いを十分に再現するのは不可能に近いと考えてよいだろう。これは二視点翻訳の作品には克服できない欠点に違いない。他の問題は、異なる媒介言語による制約、及び時代的な制約によることも明らかにした。問題点の原因についてこう認識した場合、誤訳等は重訳の本質的なものではなく、「重訳が罪」という偏見が解けるだろう。

(3) 事例の分析を通じて、三視点对照の重訳はこうした誤訳を含む解釈の限定といった問題を解消することができることが明らかになった。重訳の要素の含まれる三視点对照の翻訳法の最大のメリットは、目標テキスト (Target Text: TT) が客観的に中立に翻訳されることを担保するところである。また起点テキスト (Source Text: ST)、媒介翻訳

(Mediating Text: MT) と TT の文化間の相互理解に役に立つことにより、翻訳のミスを抑制し、適切な翻訳を導く効果があると考えられる。そして、三視点对照の翻訳法は、翻訳者にも創造の余地を与えるため、重訳の有益な側面を開いたと考えられる。

「三視点参照翻訳法」いわゆる重訳の要素を用い、誤訳を乗り越える翻訳し方について次のように概説できよう。三視点对照の翻訳法は複数の原本を用いる翻訳だけではなく、その中に必ず ST・MT・TT との3つ文化視点を考慮し、成り立つ翻訳のモデルである。このように、文化的内容の転移を最も徹底できる翻訳法として、次節で三視点对照の翻訳法の利点を検証する。「三視点对照の翻訳法」は、ST の使用の程度によって、さらに2タイプに分けられる。一つ目は重訳の一種でもある「三視点对照の重訳」(図1)である。三視点对照の翻訳法の二つ目のタイプとして、ST を TT の主な底本とするものである。後者では ST から直接翻訳する作業に、MT の参照を加えるという方法である。これは重訳を用いる翻訳という点からすると、三視点对照の重訳の変形ともみなせる可能性があるが、「直接翻訳」に近いので、「三視点对照の翻訳」(図2)とする。

#### (4) 多言語・多文化的対照翻訳法である「三視点对照の翻訳法」

ST と MT の両者を用いることにより、三視点を対照する翻訳が成り立つ翻訳の方略を「三視点对照の翻訳法」と呼ぶことにする。このような翻訳方法は、ST の使用の程度によって、さらに2タイプに分けられる。一つ目は重訳の一種でもある「三視点对照の重訳」である。ST が参考程度に用いられるパターンであり、図1で表示する。この図では、直線は「参考にする」という関係を表すものとする。

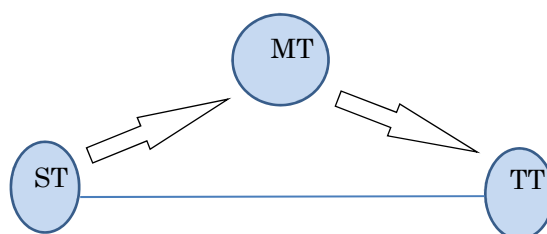


図1. 三視点对照の重訳

ST と MT の両者を用いている翻訳の方略を「三視点对照の翻訳法」と呼ぶことにする。このような翻訳方法は、ST の使用の程度によって、さらに 2 タイプに分けられる。一つ目は重訳の一種でもある「三視点对照の重訳」である。三視点对照の翻訳法の二つ目のタイプとして、ST を TT の主な底本とするものである。後者では ST から直接翻訳する作業に、MT の参照を加えるという方法である。これは重訳を用いる翻訳という点からすると、三視点对照の重訳の変形ともみなせる可能性があるが、「直接翻訳」に近いので、あえて重訳という語は避けて「三視点对照の翻訳」とする。

三視点对照の翻訳は、図 2 のように図示できよう。

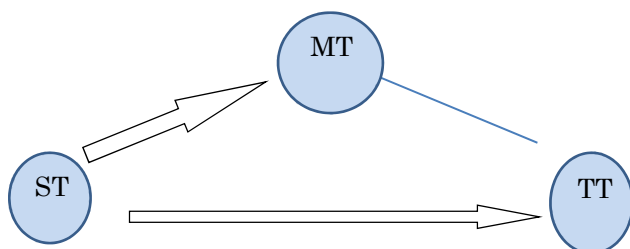


図 2 三視点对照の翻訳

#### (4) 誤訳の修正方法について

本研究では、膨大な異言語・異文化的文章の翻訳事例を分析し、三視点对照の翻訳法は、人手の翻訳のみならず、機械翻訳翻訳における翻訳の精度向上できると実証した。意味論的誤訳には、目標言語 (TL) では意味が完全に理解できない即ち意味が不明な翻訳、及び TL 且つ TL の文化で理解できるが、読み取った意味が起点の言語 (SL) 且つ SL の文化では等価ではないという 2 つのケースが分けられる。前者はほとんどが逐語訳であり、例えばベトナム語・日本語の機械翻訳によく見受けられた。後者は人手による翻訳において、主流と考える。これらの誤訳を修正する際に、機械翻訳でも、人手による翻訳でも、英語などもう一つの言語の翻訳を参照し、いわゆる文化的三視点对照の翻訳法は非常に有効と確信できた。この方法は機械翻訳で扱ったケースも、訳出の質を向上する利点をもたらすと事例分析によって、証明できた。

例えば日本語で書かれるフェイスブックのテキストやインターネットのニュースの機械翻訳によるベトナム語訳に比べ、英語翻訳を介したベトナム語訳の方が意味を理解しやすく

なり、ST の情報をより伝わったことが明らかとなった。また、人手の翻訳では、例えば日仏から仏越へと翻訳すれば、それぞれの翻訳は二視点翻訳である。その場合には原典に当たって誤訳を見つける作業は容易にはできない。しかし、日本語・フランス語ともに出来るベトナム人の翻訳者なら、日本語の原文とフランス語の翻訳からという 2 つの方向から、作品を見て調整することは可能である。それ故、通常の 1 つの方向からの視点と比べると、TT では作品について理解を深めることが期待できるであろう。また、訳出表現の面でもかなり参考にすることができ、ST を含む二つ以上の底本の表現と文化的視点を合わせて対比し、TT での表現と文化を整理することができるようになる。つまり、この場合、ST、MT 及び TT という三視点の文化を対照した翻訳が成立し、前節で論述した「三視点对照の翻訳法」の 2 つの形式 (図 1 と図 2 を参照) に相当する。

#### (5) まとめ

本研究は人手の翻訳と機械翻訳の多様な事例を通じて、意味論的誤訳の問題を解明した。誤訳は原因別に音韻論的誤訳、語形論的誤訳、統語論的誤訳、意味論的誤訳に分けられ、意味論的に絶対誤訳と相対誤訳に分類することを提唱した。このような分類は、それぞれの誤訳の種類に応じる添削・改善の方法が見出す理論前提となったと考えられる。訂正する場合は第 3 言語の翻訳と参照し、文化的に適切な翻訳を導く操作、すなわち三視点参照の翻訳法は有効であることも明らかになった。本研究でまだ言及できない意味論的誤訳を訂正する仕組み、手順、結果の評価は今後の課題にしたい。また、機械翻訳のより膨大な例文を訂正し、効率な添削方法を開発するのを試みる。

#### < 引用文献 >

Heilbron, J. (2010). 'Structure and Dynamics of the World System of Translation' UNESCO, International Symposium 'Translation and Cultural Mediation', [Online]  
<http://portal.unesco.org/culture/en/files/>

40619/12684038723Heilbron.pdf/Heilbron.pdf, 2014 年 9 月 1 日閲覧.

St André, J. (2009). 'Relay', in M. Baker and G. Saldanha (eds.) *Routledge Encyclopedia of Translation Studies*, Routledge, pp. 230-232.

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

グエン タン タム、「重訳の再評価の試み—ベトナムにおける日本文学の重訳を中心に」、『通訳翻訳研究への招待』、日本通訳翻訳学会 (JAITS), 2017月1月、pp.172-177

〔学会発表〕(計 3 件)

1. グエン タン タム、意味論的誤訳—機械翻訳の事例を通じて—、日本通訳翻訳学会第 18 回年次大会、2017.9.10、愛知大学 (愛知県)

2. Tam Thanh Nguyen, 'On finding a new definition of Indirect Translation', The Asian Translation Traditions Conference, 2017.7.6, SOAS University of London (United Kingdom)

3. Tam Thanh Nguyen, 'Suggesting a new method for translating intercultural texts- Using Indirect Translation', The 8th International Conference of the Iberian Association of Translation and Interpreting (AIETI8), 2017.3.10, University of Alcalá (Spain)

## 6 . 研究組織

グエン タン タム (NGUYEN, Thanh Tam)  
神戸大学大学院国際文化科学研究科・学術研究員  
研究者番号 : 40782016